

(Japanese Academy of Learning Disabilities)



日本LD学会会報

第40号

事務局：栃木県カウンセリングセンター内

〒320-0851 宇都宮市鶴田町687-9 ムギショウビル2F TEL. 028-649-0090 FAX. 649-1213

URL. <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jald/>

学校における支援システムの実現を

筑波大学

熊谷 恵子

昨年、学校の子どものメンタルヘルス調査のため、台湾に2度ほど行き、調査に協力してもらえぬ中学校（公立）・高等学校（国立）を何校か訪ねた。台湾の学校では、5年ほど前から軽度の障害児はすべて通常学級に在籍し、ある特定の時間だけリソースルームに来て勉強するようなシステムになっている。これは義務教育ではない高等学校でも同じである。すべての学校には輔導室（ガイダンス室）という部門があり、輔導組（カウンセリング）・資料組（生徒の個人ファイルの管理、その他資料の収集と管理）・特教組（特殊教育）という3つの部門がある。リソースルーム・個別面接室・集団面接室があり、教育心理学や特殊教育を勉強した専門家が配置されていた。軽度知的障害児、学習障害児およびその周辺の子ども達、自閉的傾向のある児童、あるいは聴覚・視覚・運動など感覚障害のある子ども達はすべて通常学級に在籍し、個別および小集団指導がリソースルームにて行われていた。また、障害児だけではなく、優秀児の教育にもリソースルームが使われ、個別面接室や集団面接室では、個別のカウンセリング、

集団での開発的カウンセリングなども行われていた。その他に、進路相談に関する資料もあり、進路に関する相談や親業相談も行われていた。学習障害などのある子ども達には、特別の入試があり、在籍学校の教師と本人、親、受け入れ側の高等学校の教師との面接によって進路を決定するというトランジションのシステムもすでにできていた。また、そこにはソーシャルワーカーが入りし、地域とのパイプ役をつとめるような場所にもなっていた。まさに、特別な教育的ニーズのある子ども達に対する様々な支援を行える場所であった。

日本では古いと考えられるような教育スタイルもまだある半面、少なくとも特別支援教育に関しては日本より格段に進んでいた。日本は教育システムに関してアジアの中では進んだ国だと思っていた私はとてもショックを受けた。このように、アジアの他の国でインクルージョンはすでに実現されているにも関わらず、日本ではなんで動きが遅いのだろうか。はがゆい思いである。アジアの教育後進国にならないよう、学校の中での多様な子ども達の支援体制を早急に確立すべきである。